



まちづくりと景観

平成28年2月

NPO 市民まちづくり会議・むさしの

1. なぜ、いま、景観なのか

1) 武蔵野市のまちづくりと景観

昭和30年代～ ベッドタウン化による農地の急速な宅地化

昭和40年代～ 都市基盤整備の時代...下水道、道路、道路舗装、学校、保育園、老人ホーム、等々

昭和50年代～ (量から質へ、物から心へ、モーレツからビューティフルへ、心の豊かさ)などと言いつつも、物質的な豊かさに執着していた時代...文化会館、コミュニティセンター、美術館、屋内プール等々の箱物
→バブル経済の時代へ[多くの人達が海外に出かけ、西欧の町や村の美しさや生活の質の豊さに彼我の差を感じた時代でもあった]

平成3年以降～ 無駄な金をかけずに、市民が知恵や労力を出しあい、協力して心豊かな生活環境を実現する時代...ボランティア、まちづくり...

生活環境の質の向上 = $\left[\begin{array}{l} \text{緩やかなコミュニティの形成} \\ \text{美しく魅力あるまちの景観} \end{array} \right] = \text{誇り得るまちの実現}$

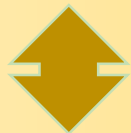
2) まちの景観の向上に向けて(まちの景観を良くする上での課題)

①市民のまちの景観に対する問題意識

市内に“いやな景観”“改善したい景観”がある: 50.6%(H26アンケート)

②景観に関する価値観の問題

景観は公共のもの(欧米)



俺の土地や建物は俺の自由(日本)→

③景観づくりのための基礎知識の不足

どこをどうすればまちの景観は良くなるのか

→わかりやすい「景観ガイドライン」の必要性



●たとえばこんなことを認識していただきたい



「柵のデザイン」

●柵は目立つ必要はない。背後の樹木や土の色と調和させたほうが良い(こげ茶など)。

●柵の部材もできる限り細くして、背後の景色が見えるほうが良い(透過性を高め、景観を一体化する)。

●大切なことは『**景観の連続性を分断しない**』配慮



「ガードレール等」

(左上)乱雑な景観の中では、白く目立つガードレールは景観に統一感を生み出す。

(右上、左下)自然景観や整った市街地景観の中では、ガードレールは目立つ必要はない。黄色いガードレールなどは論外。

(右下)歩道との境界柵を緑化する武蔵野市の取り組みは、**緑の量感を増やす**と共に**景観の連続性**を分断しておらず高く評価される。



●電柱、電線も景観を枠どり、**景観の連続性を分断**してしまう。

●しかし、住宅地では電線地下化は難しい。



宅地内建柱



道路建柱





「地域の歴史文化を伝える景観素材を活かす①」

地域の過去の歴史を伝え、未来へとつなぐ景観素材で、地域への愛着や安心感を演出する





「地域の歴史文化を伝える景観素材を活かす②」

地域の歴史とともに生きてきた古木は、
景観の風格を高める。

●古木、大木は、人々に心地よさや安らぎ感を与える(神社にあれば御神木)。

○このような認識を共有し、年に1度の落ち葉には、秋の風情としてもっと寛容になりたい。





「景観素材に木の質感を活かす」

特に児童のための街区公園等では、自然素材のやわらかな質感を持つ木を多用したい。





「緑と花で、快適で歩きたくなる道づくりを進める」

庭の樹木や生け垣の緑、外構部の花による修景で、住民が歩きたくなる、心地よい、誇れる道づくりを行う。



「江戸時代、日本のまちは花と緑にあふれていた」

- 日本人は花が大好きで、江戸近辺の植木屋たちは冬でも花を栽培し、大量に供給している。花屋は街中を売り歩き、貧しい人々の住む地域でも確実に買い手を見つけることができる(イタリアの通商使節、V・F・アルミニオン、『イタリア使節の幕末見聞記』大久保昭男訳、新人物往来社)
- 日本人の国民性のいちじるしい特色は、下層階級でもみな生来の花好きであるということだ。気晴らしにしじゅう好きな植物を少し育てて、無上の楽しみにしている。もし花を愛する国民性が、人間の文化生活の高さを証明するものとするれば、日本の低い層の人びとは、イギリスの同じ階級の人達に較べると、ずっと優ってみえる(イギリスの園芸家、ロバート・フォーチュン、『江戸と北京』三宅馨訳、広川書店)
- 都市、しかも江戸の商店街の狭い小路の各家々にでも、一隅に小さな植物が置いてある。多分、制限された場所が、矮性樹の栽培という洗練された趣味になったのだろう(プロイセンの使節団長オイレンブルグは、『オイレンブルグ日本遠征記』中井品夫訳、雄松堂出版)
- 数多くの公園や庭園がこの江戸を埋め尽くしているので、遠くから見ると、無限にひろがる1つの公園の感を与えてくれる。到る所に林として、また、並木として植えられた木立に気付く(スイス領事、ルドルフ・リンダウは、『スイス領事を見た幕末の日本』森本英夫訳、新人物往来社)



オープンガーデン
(個人の庭の公開)

マンション敷地の歩道公開





街中に植えられた草花や、玄関先、窓辺の花は、「そこに住む人々」にとっては、心地よく快適な景観要素として生活環境の質を高める役割を果たし、「訪れる人々」にとっては、無言の歓迎表現になる。」

残念ながら、現状では西欧の国々のほうが街中の草花の演出には長けている



「花と緑と水を
活かして、市民
が憩える景観づ
くりを」

美しい花壇や池
や噴水を用いて、
大人が憩い、癒
される広場や公
園を整備する。





武蔵野市の顔: 吉祥寺の第一印象(左)と
商業地域の景観(下の3枚)

「マイナスの景観はゼロに戻し、さらにプラス
に転じていく必要がある」



商業地域でも、いずれは武蔵野らしい**風格ある和の街並み**づくりを



御清聴ありがとうございます。

(続く)

NPO 市民まちづくり会議・むさしの
では、3月、5月に
吉祥寺の商業地地域、住宅地の
景観ウォッチングを実施します。

詳しくは、<http://matimati.or.jp> をご参照ください。